

Global
Communication
Port

PORT OF YOKOSUKA

横須賀港の紹介

環境と共生する湾口部物流拠点をめざして



横須賀市港湾部

横須賀港の位置

GLOBAL COMMUNICATION PORT

横須賀港は、三浦半島の東側、東京湾の入口に位置し、北は横浜市との境の夏島町から南は野比海岸までの、港湾区域(水域)約5,500ha、臨港地区約258ha、海岸線延長約61kmの

港湾です。横須賀港は、追浜、深浦、長浦、本港、新港、平成、浦賀、久里浜などの13の地区から成り立っています。

これらを総称して横須賀港と呼び、横須賀市が港湾管理者となっています。



横須賀港の
役割
GLOBAL COMMUNICATION PORT

横須賀港は、自動車工場、造船所、火力発電所が立地する産業の拠点、完成自動車や冷凍マグロなどの貨物を扱う物流の拠点、房総半島や伊豆諸島への旅客輸送の拠点として人々の暮らしを支えています。また、大地震の際には、緊急物資や被災者の海上輸送を確保するために、耐震強化岸壁を平成地区、久里浜地区に整備しています。今後、長浦地区にも整備を予定しています。

東京湾の浦賀水道航路は、世界でも有数の船舶の行き来で混雑する海域です。

このため、航行する船は12ノット（時速約22km）以内という速度規制を受けており、船が東京湾の入口から湾奥まで航行するのに約3時間を要します。しかし、浦賀水道航路を通らずに済む久里浜地区や浦賀地区で陸上交通に切りかえれば、約1時間で首都圏まで行くことができます。

横須賀港はこのメリットを活かした、首都圏における内貿ユニットロードの拠点や海を利用した人々の交流の拠点づくりを目指しています。

① 追浜地区



自動車産業、各種研究所、造船所等の企業が立地し、日産自動車の輸出が行われています。



自動車の製造(日産自動車㈱提供)

② 深浦地区



各種工場、造船所が立地し、小型船だまり、深浦ポートパークが整備されています。

③ 長浦地区



戦後最初に整備が進められた地区で、捕鯨の基地として栄えました。現在は、各種工場や倉庫が立地しているほか、海上自衛隊・米軍が利用しています。

④ 本港地区



慶応元年、この地に横須賀製鉄所が建設され、港湾としての横須賀港の歴史が始まりました。現在は、自衛隊と米軍が利用している、天然の良港です。

⑤ 新港地区



中心市街地に隣接する横須賀港随一の規模を持ち、SOLAS条約に基づく港湾施設保安計画に対応した国際ふ頭です。

⑥ 平成地区



「海辺の複合リゾート都市」を目標に、職・住・遊・学の機能を融合したまちづくりを進めています。また、大規模地震に備えた耐震強化岸壁を整備しています。

⑧ 馬堀地区



平成7,8年の台風により、馬堀海岸一帯が浸水しました。その対策として親水性を備えた面的防護方式護岸の整備を行いました。



冷凍マグロの荷揚げ

⑩ 浦賀地区



江戸時代から中継貿易港として栄えた歴史ある港です。現在、周辺地域を含めた、再整備計画を進めています。

⑫ 久里浜地区



ペリー提督が日本に初めて上陸した場所です。東京湾の入口に位置し、浦賀水道航路を通らずに入港できる港です。この港にも耐震強化岸壁を整備しています。

⑬ 野比地区



約5km(港湾区域内は約2km)の砂浜が広がっています。海岸侵食による背後地への被害を防ぐために、離岸堤等の整備を進めています。

横須賀港は、慶応元年(1865年)に、徳川幕府の勘定奉行の小栗上野介忠順とフランス人技師フランソワ・レオン・ヴェルニーが、横須賀村に製鉄所(後に造船所)を建設したことを起源としています。

明治17年(1884年)に、横須賀鎮守府が設置されて以来、軍港として発展してきましたが、終戦後、昭和25年(1950年)の旧軍港市転換法の施行により、横

須賀市が「平和産業港湾都市」として新たな歩み始めたのにあわせ、港は旧軍施設を転用し緊急食糧輸入港などに生まれ変わりました。

昭和23年(1948年)に貿易港としての指定を受けたのち、昭和26年(1951年)には、港湾法により、準特定重要港湾(国内産業開発上特に重要な港湾)に指定され、同28年(1953年)には、横須賀市が港湾管理者となりました。

横須賀港の歴史年表

【横須賀港関連】

- 鎌倉、室町時代 浦賀・深浦が海運の港として活発に利用されていた
走水は房総半島への渡海の地だった
- 1607 (永禄8) このころから外国貿易が盛んになる
- 1632 (寛永9) 走水奉行が番所を設置
- 1720 (享保5) 浦賀奉行所が置かれる
- 1853 (嘉永6) ベリーが浦賀に来航、後久里浜に上陸
- 1865 (慶応元) 横須賀製鉄所設立
- 1884 (明治17) 東海鎮守府が横浜から移転、横須賀鎮守府となる
- 1903 (明治36) 横須賀海軍造船所が横須賀海軍工廠となる
- 1907 (明治40) 横須賀市制施行
- 1911 (明治44) 浦賀港への入港船舶数が年間8,400隻を超える
- 1915 (大正4) 横須賀港開港50周年
- 1925 (大正14) 安浦港竣工
- 1937 (昭和12) 港湾計画策定
- 1941 (昭和16) 横須賀軍港の副港として久里浜港工事着手
- 1945 (昭和20) 終戦・港湾施設が接収される
- 1946 (昭和21) 長浦地区の接収施設の一部が返還され、緊急食糧受入港となる
- 1948 (昭和23) 横須賀港が貿易港としての指定を受ける
- 1951 (昭和26) 横須賀港が準特定重要港湾の指定を受ける
- 1953 (昭和28) 横須賀市が港湾管理者となる
(長浦・久里浜に港湾事務所設置)
- 1960 (昭和35) 久里浜～浜金谷港(千葉県)航路開設(東京湾フェリー株)
- 1965 (昭和40) 横須賀港開港100周年 久里浜ふ頭竣工
- 1974 (昭和49) 新港ふ頭竣工
米ロサンゼルス港、ロングビーチ港と姉妹提携
- 1982 (昭和57) 港湾計画改訂
- 1992 (平成4) 平成地区埋立竣工
海辺通り公園開園
- 1993 (平成5) 港湾計画改訂
- 1996 (平成8) うみかぜ公園開園
臨港道路小川三春線開通
- 1998 (平成10) 久里浜1工区埋立竣工
- 1999 (平成11) 浦賀・鴨居地区埋立竣工
- 2001 (平成13) 久里浜2工区埋立竣工
- 2002 (平成14) 久里浜一六島航路開設(東海汽船株)
- 2003 (平成15) 横須賀港港湾管理者50周年
- 2004 (平成16) 久里浜一大分航路航航(株)シトル・ハイウェイライン)～平成19年
- 2005 (平成17) 港湾計画改訂、港湾環境計画策定
馬堀海岸高潮対策護岸竣工
- 2007 (平成19) 横須賀市制100周年
- 2008 (平成20) 久里浜3工区埋立竣工
- 2008 (平成20) 大津1工区埋立竣工
- 2009 (平成21) 野比地区侵食対策事業着手

【社会の動き】

- (1868) 明治維新
- (1905) 日露戦争終戦
- (1918) 第一次世界大戦終戦
- (1929) 世界恐慌
- (1937) 日中戦争始まる
- (1945) 第二次世界大戦終戦
- (1950) 朝鮮戦争始まる
- (1951) 日米安全保障条約調印
- (1957) 世界初人工衛星打ち上げ成功
- (1964) 東海道新幹線開業
東京オリンピック開催
- (1969) 東名高速道路開通
- (1970) 大阪万博開催
- (1973) 第一次オイルショック
- (1978) 新東京国際空港(成田空港)開港
- (1979) 第二次オイルショック
- (1982) 東北・上越新幹線開業
- (1990) 国際花と緑の博覧会開催
- (1995) 阪神・淡路大震災
- (1997) 京都議定書採択
- (1998) 長野オリンピック開催
- (2000) 九州・沖縄サミット
- (2001) 小泉内閣発足
- (2002) FIFAワールドカップ日韓大会開催
- (2005) 愛・地球博開催
- (2008) 世界金融危機



江戸時代の本港地区



スチームハンマー



海軍工廠造船台



建設中の平成地区



建設中の久里浜地区

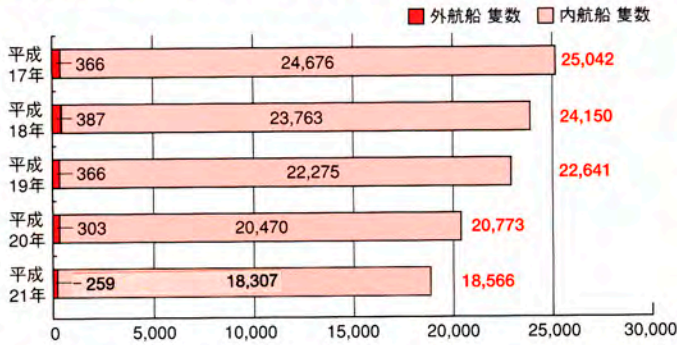


横須賀港で取り扱われる貨物は、自動車（完成品及び部品）とフェリー貨物が大部分を占め、その他に砂利・砂、発電所の燃料に用いる重油などがあります。水産品としては、

冷凍マグロの取扱いがあげられ、全国有数の取扱港となっています。

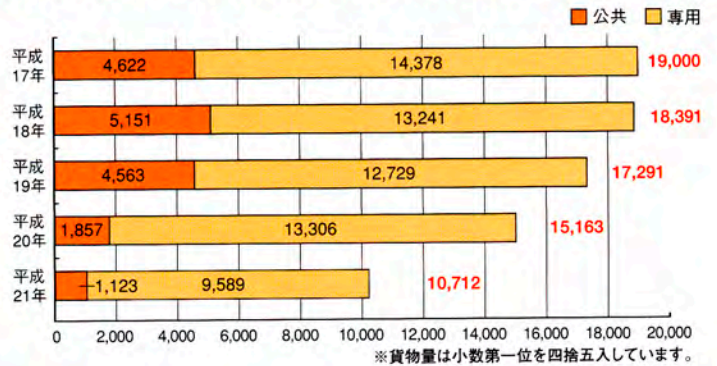
外航・内航別入港船舶隻数の推移 (単位: 隻)

- 外航船舶: 外国の港から入港した船
- 内航船舶: 国内の港から入港した船



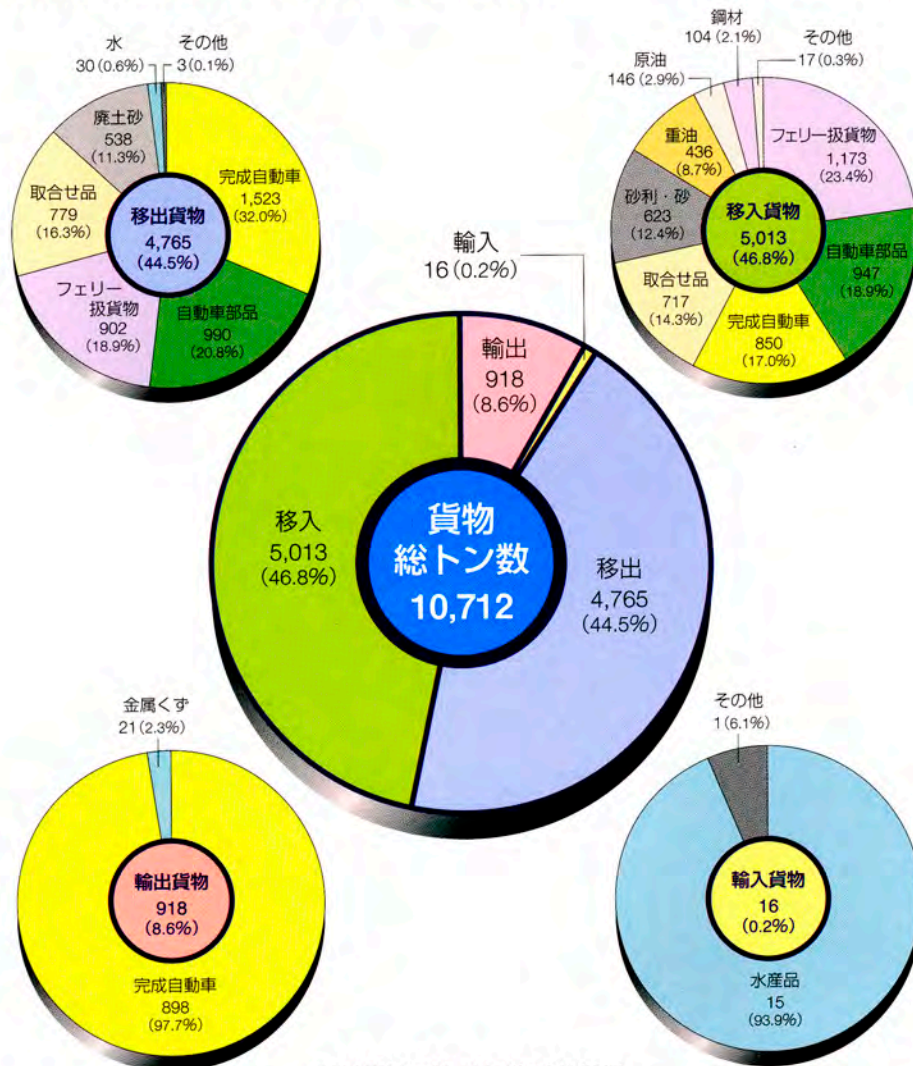
公共ふ頭・専用ふ頭別海上出入貨物量の推移 (単位: 千トン)

- 公共ふ頭: 誰もが利用できるふ頭
- 専用ふ頭: 特定の企業などが利用するふ頭

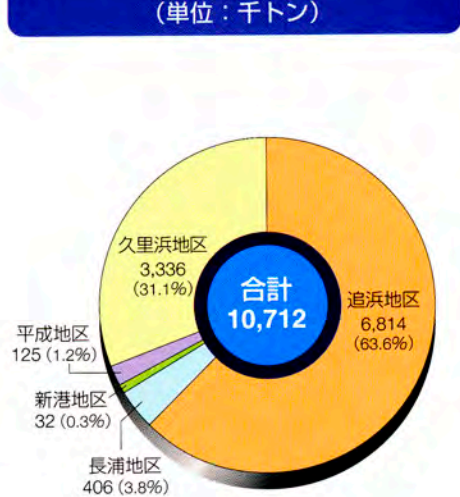


取扱貨物の構成 <平成21年> (単位: 千トン)

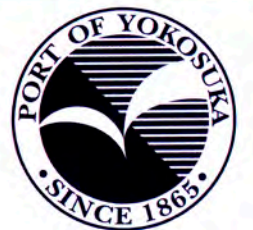
- 輸出(輸入)貨物: 外国との貿易の貨物
- 移出(移入)貨物: 国内を輸送される貨物



地区別取扱貨物量 <平成21年> (単位: 千トン)



横須賀港シンボルマーク



平成16年度に制定された横須賀港のシンボルマーク。海と陸域をまたいだ港湾活動を表す大空を滑走する「かもめ」と「横須賀」のYをイメージし、世界に羽ばたく横須賀港のイメージを含めデザインしました。

※貨物量は、小数第一位を四捨五入しています。
 ※割合は、小数第二位を四捨五入しています。

人々が海とふれあえるウォーターフロント…横須賀港の海岸線にはヴェルニー公園から観音崎公園までの海沿いの10kmを結ぶ「うみかぜの路」(海と緑の10,000mプロムナード)の整備

が進められています。横須賀港には海辺の憩いのスポットがたくさん点在しています。



㊤ **ヴェルニー公園**

フランス式庭園様式を取り入れた公園です。海沿いには海上自衛隊・米軍の艦船を一望できるボードウォークがあり、潮風とともに散歩を楽しめます。「うみかぜの路」の起点です。



㊦ **戦艦三笠**

1902年にイギリスで建造された戦艦です。日露戦争において、東郷平八郎が乗艦する連合艦隊の旗艦として活躍しました。三笠公園内に保存されています。



㊧ **猿島**

東京湾唯一の自然島。海水浴、バーベキュー、釣り、散策などが楽しめます。三笠公園脇から渡船が出ています。



㊨ **臨港道路小川三春線沿道緑地**

幅10mの遊歩道には、モニュメントを始め、いろいろな噴水、照明等が備えられています。



㊩ **うみかぜ公園**

海辺ニュータウン内にある芝生緑地です。スケートボード、MTBなどが楽しめるスポーツ広場、親水護岸などがあります。



㊪ **海辺つり公園**

四季を通じて海釣りが出来ます。芝生や遊具が整備されていて、家族連れで楽しめる公園です。



㊫ **馬堀海岸高潮対策護岸**

高潮による被害を防止するための護岸です。静穏時には、親水施設として、護岸上部を歩ける構造となっています。



㊬ **走水観音崎遊歩道**

約600mのボードウォークです。青い海が一面に見渡せます。また、浦賀水道航路を行き交う船舶を、間近に眺めることができます。



㊭ **横須賀美術館**

2007年に開館しました。観音崎公園の中にあり、近くで海水浴や散策が楽しめます。また、周囲には灯台や砲台跡などもあり、自然と歴史を感じながら、ゆったりとした時間を過ごすことができます。



㊮ **観音崎灯台**

日本初の洋式灯台です。初代は、フランス人技師レオンス・ヴェルニー等が設計し、1869年に初点灯しました。大正時代に2度の地震によって倒壊し、現在は3代目にあたります。内部の見学が可能です。



㊯ **ペリー記念碑**

1853年、当時鎖国中だった江戸幕府に開国を求めるため、ペリーが黒船4隻を率いて久里浜海岸に上陸しました。碑文は伊藤博文により書かれました。

横須賀港内には、観音埼や猿島、走水海岸など、東京湾西岸では貴重となった自然海岸や緑地があります。このことは、東京湾内の他の港湾と比べ横須賀港の大きな特徴・財産で

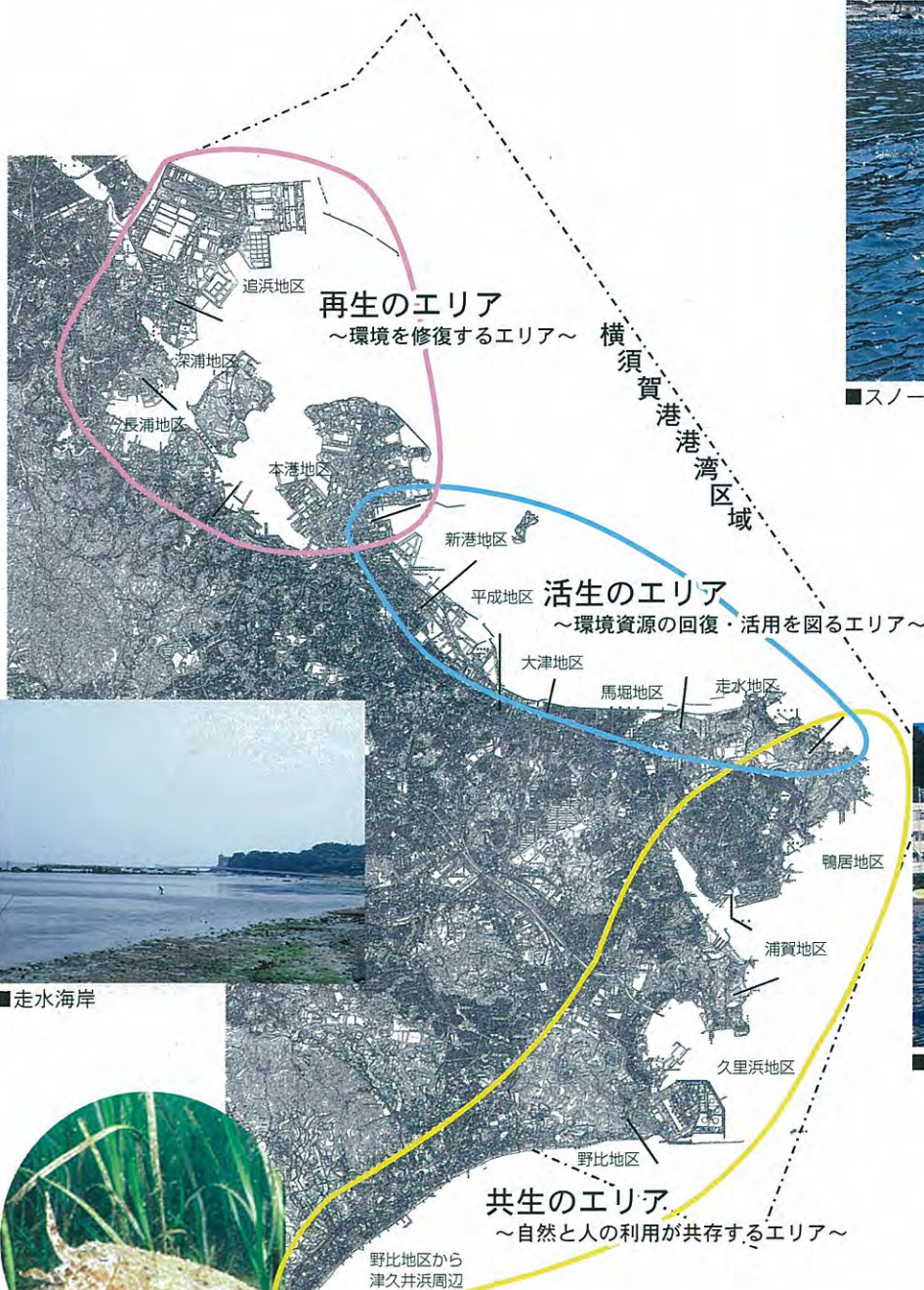
す。横須賀港は、産業物流の場としての港湾と、自然豊かな環境に配慮した人々の憩いの場としての港湾の両立を目指します。

横須賀港港湾環境計画

港湾計画改訂に合わせ、平成17年3月に策定しました。横須賀港のもつ自然、文化、歴史を活かし、環境と調和したみなとづくり、まちづくりを行うため、「市民との協働によるエコタウンポートの形成」を基本理念に、横須賀港の海の再生・活生・共生に取り組んでいきます。

エコポートよこすか事業

横須賀港の海の環境問題や、自然との共生について、スノーケリングやシーカヤックの体験などを通して、市民と共に楽しみながら海の環境への理解を深めていこうとする取り組みを実施しています。



■スノーケリング体験(走水海岸)



■走水海岸



■シーカヤック体験(浦賀)



海のゆりかごアマモ

横須賀港と首都圏

GLOBAL COMMUNICATION PORT

横須賀港は首都圏物流を支える東京湾口に位置する優位性がありますが、高速道路網の整備により首都圏各地からのアクセスも向上しています。南関東の主要な都市の多くが、横須賀港から60km圏内に含まれています。



横須賀港の定期航路

GLOBAL COMMUNICATION PORT

横須賀市は、「国際海の手文化都市」を都市像として掲げ、海に囲まれた特性を活かし、海を利用した人々の交流の拠点づくりを目指しており、現在、久里浜地区などから、定期航路が就航しています。

また、季節を通してたくさんの観光客が訪れ、豊かな自然を体感できる猿島をはじめ、艦船を間近に見ることができる軍港めぐり等、人気スポットで四季折々の横須賀を楽しむことができます。



久里浜—浜金谷港
久里浜と千葉県浜金谷港間11.5kmを35分で結ぶフェリーです。
使用船舶：かなや丸、しらはま丸、くりはま丸
乗客定員：580人 乗用車：110台 バス：16台
トラック：36台
問い合わせ先：東京湾フェリー(株)久里浜支店
046-835-8855(代表)
<http://www.tokyowanferry.com>



久里浜—伊豆諸島(大島等) (季節運航)
椿まつりの時期及び夏季を除く時期に、高速ジェット船で、久里浜と大島を60分で結びます。期間限定で利島、新島、式根島、神津島まで運航しています。
乗客定員：260人
使用船舶：セブンアイランド「夢」、「愛」、「虹」
問合せ先：東海汽船(株)予約センター
03-5472-9999
<http://www.tokaikisen.co.jp>



猿島航路(新港—猿島)
新港(三笠園棧橋)と猿島を10分で結んでいます。
使用船舶：シーフレンド1
シーふれんど2
乗客定員：150人



軍港めぐり
本港地区内の軍港施設を45分かけて周遊します。
使用船舶：シーフレンド5
乗客定員：150人

問合せ先：(株)トライアングル
046-825-7144(三笠営業所)
<http://www.sarusima.com/>



追浜—御前崎—刈田(福岡)—大分
日産自動車の専用ふ頭が整備されている追浜地区と御前崎、刈田、大分を結ぶ貨物専用フェリーです。トレーラーを約600台運搬しています。
使用船舶：みやこ丸、むさし丸
問合せ先：商船三井フェリー(株)営業二部
03-6853-8006
<http://www.sunflower.co.jp>



横須賀市港湾部 港湾企画課



〒238-8550 横須賀市小川町11番地
電話：046(822)9802 FAX：046(826)3210
URL：<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/minato>
MAIL：pp-ph@city.yokosuka.kanagawa.jp
※港湾の用語はホームページをご覧ください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。

※このパンフレットは、2500部製作し1部あたりの印刷経費は90円です。